

氏神様の

春まつり

四月二十四日(日曜日)

祭典は午前十時から齋行。

午後一時からは、河野小学校の

四年以上男子児童による少年

奉納相撲があります。

そのあと(午後三時半頃から)は、

豪華景品、餅まきをします。

献花もあります。賑やかです。

ぜひ、ご参拝ください。

祭事予定(四月、五月、六月)

朔日祭 四月一日(金曜日) 午前七時始式

神武天皇祭遥拝 四月三日(水曜日) 午前七時始式

月次祭 四月十五日(金曜日) 午前七時始式

春季大祭 四月二十四日(日曜日)

上記「氏神様の春まつり」の通り

昭和祭 四月二十九日(金曜日) 午前七時始式

朔日祭 五月一日(日曜日) 午前七時始式

月次祭 五月十五日(日曜日) 午前七時始式

夏祭 五月二十三日(月曜日) 午後六時始式

夜のお祭りです。清興(アトラクシヨン)をどうするか、未定

朔日祭 六月一日(水曜日) 午前七時始式

月次祭 六月十五日(水曜日) 午前七時始式

右の通り齋行します。春季大祭と夏祭のほかは、祭典参列者は今までのところ、神職の身内の者だけです。が、その時刻に来られてお参りなさるなら、ぜひとも拝殿に上がって祭典にご参列下さい。参列者の多寡に拘らず毎回、祭典後には社頭講話があります。

氏神様で、タケノコ掘りを

三月十二日土曜日、高縄神社で勤労奉仕がありました。総代さん協議員さん、ご苦勞様でした。

作業は、参道南から宮内山の社有地にかけて斜面に密生している真竹を間引きすることと、山林奥の孟宗竹を伐採することでした。孟宗竹は、もともと

境内や社有山林には無かったもので、十数年前から周辺竹藪の地下茎が進入して生え始め、このままで放っておいたら将来は、鎮守の森が竹藪になってしまいます。

作業が終わってから皆で相談し、このさい社報で呼びかけて、シーズン中は筍(たけのこ)掘りに、山林を開放したら、—ということになりました。そこでお知らせ。

高縄神社社有地の筍を、氏子崇敬者は採取してよろしい—ことにします。

(神社を囲む丘陵の稜線より内側が社有地です。境界を表わす石の標柱が山林に点在しています)ただし、条件があります。

1、あくまでも氏子崇敬者であること

氏子とは、地区内に居住し神社の護持に協力している方々です。崇敬者とは、神様を崇敬敬う方々です。筍(たけのこ)掘りで入山なさる場合は、必ず参拝し、神様の御許しを得て下さい。

2、販売目的での採取は厳禁とする

採って帰った筍は、家族みんなで食卓をかこみ楽しく戴いて下さい。ご近所におすそ分けするのも結構です。けれども金もうけのために、神域の物を持ち帰ることを、神様は御許しになりませんよ!

3、入山に伴なう危険や事故に、高縄神社は一切責任を負わないこととする

山林にはマダニがいます。恐ろしい感染症を媒介するやつです。蜂や毒蛇はまだ出ないでしょうが、野獣には遭遇するかも知れません。くれぐれも、お気をつけて。

温故知新

石文めぐり

三輪田米山の字

今年二月二十四日の愛媛新聞「ワイドえひめ」に『米山の碑文鑑賞手助け』と題して松山・風早活性化協の活動紹介記事がありました。その中で、

「米山の石碑はほかに、新田神社（立岩米之野）▽籠御前神社（同）▽高縄神社（宮内）▽正八幡神社（小川）―にある」と書かれていましたので、

「高縄神社のは、どこにある？」と訊かれるようになりました。

それは寄附石です。石段を登ったところ、神門の手前、向かって左にあります。



寄附者は、西園寺公望（きんもち）公です。それを顕彰する寄附石の文字を、三輪田米山に揮毫してもらいました。「金五拾円」となっていますが、西園寺公に五十円もらったわけではありません。

神名石（後述）文字揮毫の謝礼を差し上げようとしたのに受け取ってもらえなかったから、その分を寄附金扱いにしたということでした。

高縄神社の昇格と米山

明治の御一新に伴なう一郷一社の定則によって、高縄神社は郷社に列格しました。

そして明治二十八年には、県社に昇格しました。この年、日清戦争が終わっています。その上に河野村では、氏神様が昇格したのです。

恒例の高縄神社春季大祭（四月二十四日）は奉祝大祭として斎行。当時の人口は今よりもずっと少なかった筈なのに、境内は「立錐の余地無き」有様だったと社司の手記には書かれています。

その社司と同じく神職と教導職とを兼ねていた三輪田米山は当神社の昇格を祝って、七月五日

『縣社高縄神社』

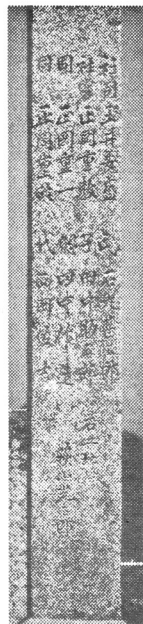
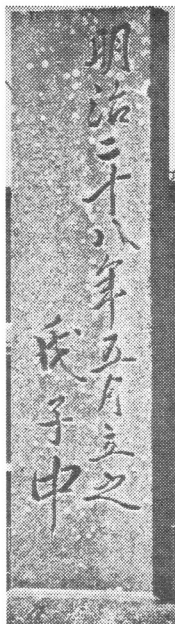
と揮毫してくれました。落款は、「少教正大神常貞書」となっています。少教正というのは、教導職の級位です。大神は、「おほみわ」と読み、三輪田の本姓です。この揮毫がなされたのはいつであったか不明でしたが、米山日記が公開されたことよって知ることができました。

米山日記は、後に三輪田家を継いだ人らのために散逸してしまっていたのですが、その幾分かを浅海蘇山先生が蒐集なさり、大著『米山―人と書―』（昭和四十四年八月三十日発行）に掲載されています。その416ページに、明治二十八年七月五日、高縄神社の揮毫を記した部分が出ています。

なお、この社報『高縄』の二字は、その揮毫から採らせていただきました。また「温故知新」の字は、前述した愛媛新聞の記事でも紹介されている新田神社（立岩米之野）鳥居石文からの写しです。

西園寺公望公揮毫の神名石

その神名石は、高縄神社の鳥居もとにあります。



昇格を祝って三輪田米山が、『縣社高縄神社』と揮毫してくれた。けれども神名石の揮毫は、西園寺公にお願いした。その謝礼を受け取られなかったから寄附を戴いたことにして、また米山に、こんどは寄附石の文字を書いてもらったのです。

絵馬がたい

今日では、小さな板に絵柄や願い事を書いたのを絵馬といいますが、元々の絵馬は大きな額でした。高繩神社には、多くの絵馬がありますが、いずれも劣化がひどく、そのうち剥げ落ちてしまいます。せめて写真におさめ、この社報で順次紹介をすることに致します。

仁田の四郎

この絵馬は、名のある絵師の作品です。



作者は森田樵眠。寛政七年（西紀1795年）三津の生まれで京都に学び明治五年（西紀1872年）歿。

描かれているのは鎌倉時代の武将、仁田（にった）四郎忠常、猪退治の図です。同じ画題の絵馬は他の神社でもよく見かけますが、その中でもこの作品は優れていると思われまます。

仁田忠常は伊豆出身で、生年は不詳ですが歿年は建仁三年（西紀1203年）。猛将として誉れ高く、源頼家の命により北条時政を討とうとしましたが加藤景廉に殺された人です。

建久四年（西紀1193年）五月、源頼朝は富士の裾野で大巻狩を催しました。ある日、大きな手負いの猪が突進して武士たちを次々と牙にかけて大騒ぎ。そこへ仁田忠常が馬上から猪に飛び乗り（馬を猪に倒されたともいう）尻尾を掴み脇差でみごとに退治しました。

これを間近で見た頼朝公と坂東武者たち。忠常の勇猛果敢を称えぬ者はなかつたといひます。

あるいはまた、この猪は神の化身だった。それを殺したから、仁田忠常は非業の最期を遂げたのだ、ともいわれます。

その富士野の巻狩では、大事件が起こりました。いうまでもなく曾我兄弟の仇討です。この事件にも仁田忠常は、大きな役割をはたしています。

仇討を果たした兄弟は、宿直（とのゐ）の将士に追われながらも抵抗し反撃して、とても強くて手に負えん。さんざん戦った末に、兄の十郎祐成（すけなり）は討ち取られ、弟の五郎時致（ときむね）は生け捕られて翌日処刑されました。その祐成を討ち取ったのが仁田忠常です。時致を生け捕ったのは、御所の五郎丸でした。

夜討曾我

この絵では、向かって右が兄の十郎祐成で、左が弟の五郎時致です。

二十八日は新月に近い闇雨。油断していた工藤祐経を兄弟は討ち果たしました。

能楽「夜討曾我」では仇討ちの場面は演じられず現場から逃げ出して来た臆病者が一部始終を語ります。

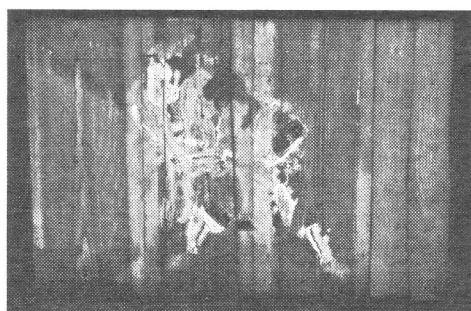


五郎丸のタツクル！（五郎を五郎丸が）

本懐をとげた曾我兄弟。

兄は忠常に討ち取られたが弟の時致は、なお奮戦。五郎丸は一計を案じ女装して、時致が見逃し通り過ぎるや、後ろから組み付き倒して捕えました。

この絵は剥落がひどく、本当に残念です。年配の方なら、昔の姿を憶えておられることでしょう。



《出来事》(二月～三月)

一月二十一日着手、拜殿屋根の塗り替え

拜殿の屋根はトタン(鉄板)にペンキ塗りなので、錆がきます。そのために、数年に一度は塗り替えをしなければなりません。

昨年までは錆だらけ。予定も予算もないけれど、思い切って今年度、補正予算で塗り替えました。

随意契約ではなく競争見積りで業者選定。責任役員会の議決を経て一月二十一日午前八時三十分から

奉告祭をして着手。雨天で仕事が出来ない日もあり寒冷甚だしく作業は大変であったろうと推測しますが、無事に出来上がりました。

ぜひ見に来てください。

なお屋根の状態は、全般に酸化腐蝕が甚だしく、随所に孔があいているのを塞いだそうです。それに勝男木(屋根の棟に横たえ並べた木)など、木材がボロボロで中がスカスカの状態。板金と塗料でなんとか体裁を保っている有様。もう限界のようです。

三月二日、文化財めぐり

午前九時から十一時にかけて河野小学校児童の皆さんが、グループに分かれて、次々と高縄神社をおとずれました。

宮司と禰宜で手水の作法や正式な参拝のしかた等を教え、本殿の裏をまわって建物見学をしました。一グループあたりの滞在は、ごく短時間でしたが、質問には答えました。

Q：高縄神社の神様は何人？

A：神社の神様を御祭神(ごさいじん)という/高縄神社の御祭神は三柱/神様を数える単位は「人」ではなく「柱」

Q：男か女か？

A：三柱の内、二柱が男神様で一柱が女神様

Q：神様を見れる？

A：見れない/見えない/見えないからこそ神様

Q：本殿の中に居るのでは？

A：神様そのものが居るのではない/本殿の中に祭られているのは御霊代(みたましろ)といって、見えない霊である神様に代えて祭る物/その御霊代も、ふつうは見えてはならん

Q：屋根の上にあるXの形は？

A：千木(ちぎ)という

Q：千木の形で神様の性別がわかると聞いたことがあるが如何？(先生からの質問)

A：そのような見方はある/が、必ずしもそうとはかりは言えない

Q：千木の形とは？

A：内削ぎと外削ぎ/先端の切り口が水平なのが内削ぎで、この高縄神社のように垂直なのは外削ぎ/伊勢の神宮では内宮が内削ぎで外宮が外削ぎ/神宮の場合、御祭神はどちらも女神様

Q：高縄神社は、何がもとになっている？

A：むつかしい質問。だが本質にせまる質問！/この神社は明治維新まで河野新宮とか河野三島宮とかよばれて、河

野家が崇める大三島(少年自然の家がある)の大

山祇神社から神様の霊を分けてもらい祭られたという/しかし河野家が活躍するようになる前の時代、国の歴史書である『日本三代実録』という本に「高縄神」という名前がのっている/高縄山は、古代人が崇めた聖なる山/その高縄山と高縄神社の位置関係は東西に一直線/河野小学校の西門から北へ高縄神社の鳥居へ行く道の間から見るならば、高縄神社の向こうに高縄山が重なっている/この位置からは、春分と秋分には高縄山の頂上に朝日がかがやくのである/もうすぐ春分の日。確かめてみたら？

平成二十八年年度予算が成立

三月七日、高縄神社責任役員会を開催。次年度の経常費(一般会計)予算が可決・成立しました。

まだまだ難問山積ですが、着実によくなっています。確実に正常化に向けて動いています。

どうか氏子の皆様、よろしく御願ひ申し上げます。

平成28年度高縄神社経常費予算書

款	予算額	前年度予算額	増減(△は減)
1.繰越金収入	円 300,000	円 305,484	円 △5,484
2.神饌幣帛料	12,000	12,000	0
3.社入金	5,280,000	5,241,000	39,000
4.寄附金収入	70,000	60,000	10,000
5.繰入金収入	10,000	10,000	0
6.雑収入	8,000	10,000	△2,000
収入合計	5,680,000	5,638,484	41,516

歳出

款	予算額	前年度予算額	増減(△は減)
1.祭典費	円 1,078,000	円 997,500	円 80,500
2.神符守札調製費	250,000	50,000	200,000
3.社務費	2,290,000	2,260,000	30,000
4.教化費	300,000	250,000	50,000
5.管理費	1,025,000	960,000	65,000
6.負担寄贈金	311,000	361,000	△50,000
7.繰出金	100,000	100,000	0
8.予備費	326,000	659,984	△333,984
支出合計	5,680,000	5,638,484	41,516